

平成23年度中国ブロッククラブミーティング2011開催報告

日時：[第1日目] 平成23年11月26日(土) 13:00～17:00

[第2日目] 平成23年11月27日(日) 13:00～17:00

会場：「山口県セミナーパーク」〒754-0893 山口県山口市秋穂二島1062

内容：[第1日目]

(1) 開会あいさつ・プログラム趣旨説明

(2) 講演

『行政と一体となった総合型地域スポーツクラブの取り組み』

(3) 事例発表

『創設時に知っておこう“行政との新しいパートナーシップ”』

(4) 全体会（質疑応答・協議）

(5) まとめ

[第2日目]

(1) 開会あいさつ・プログラム趣旨説明

(2) 事例発表

『「自立にむけて」一夢の実現のために』

(3) 分科会（ディスカッション）

(4) まとめ

【概要】

1日目を創設支援クラブを対象とし、2日目は、自立支援・クラブマネジャー設置支援及び県総合型クラブ連絡協議会加入クラブを対象に開催した。参加者は、延べ144名（関係者含む）であった。

【討議内容】

[第1日目]

【講演『行政と一体となった総合型地域スポーツクラブの取り組み』】

NPO法人スポーツクラブ21はりま事務局長の坂口正信氏から兵庫県播磨町での総合型地域スポーツクラブを核とした行政の取り組みを「～行政との協働と参画の中で～」というサブタイトルのもとに講演をいただいた。

播磨町は、女性町長清水ひろ子氏の強いリーダーシップのもと、ソフト面とハード面を一本化したスポーツ振興を総合型地域スポーツクラブのシステム化により推進することとし、地域づくりの側面も担う「NPO法人スポーツクラブ21はりま」を一町一クラブ方式で設立した。この仕組みの実現のひとつに、能力の高い専門担当職員を継続配置する等、その覚悟を決めた施策は、これからの行政の取り組みのひとつの指標となるものと思われる。



【事例発表『創設時に知っておこう“行政との新しいパートナーシップ”』】

事例発表は、行政と良いパートナーシップでクラブ運営をしている3クラブ（コミスポ夢が丘・筆の里スポーツクラブ・煌めきクラブ周布）が発表した。それぞれのクラブに対する行政の関わりは異なるが、行政との協働の大切さは全クラブが一致して認識している。

創設時のクラブは、行政の関わりと自立に向けての取り組みの将来展望に困惑することが多いのが現状である。この事例発表は、良い参考になったと思う。



【全体会（質疑応答・協議）】

参加者からの質問に、講演者・事例発表者と地方企画班員が答弁する方式で進行した。

質問内容は、設立後に担当職員が替わって困っているなど行政の取り組み姿勢に対するものと指定管理に関するものが多く、答弁者がそれぞれの立場から回答した。

この全体会で感じたことは、行政の総合型地域スポーツクラブに対する理解度と位置づけ、推進体制が地域によってはまだまだ足りないというこれまでも再三指摘されていることが、多くのクラブの課題となっているということで、この解消が急務と思われる。

指定管理については、多くのクラブが勉強不足であり、特化した研修の必要性をこの全体会でも痛感させられた。



【第2日目】

【事例発表『「自立にむけて」—夢の実現のために—』】

大規模（NPO 法人ゆうスポーツクラブ）・中規模（財団法人北栄スポーツクラブ）・小規模（びぜん優くらぶ）に分類した3クラブからそれぞれの特徴をいかしたクラブ運営についての発表をいただいた。

行政と共に歩むクラブ、行政の支援を受けないクラブなど形態は異なるが、組織の自立を目指しているのは共通している。全く同じ組織はないわけであるが、多くの事例を知ることが参考になり、何らかの形でクラブ運営に反映できるものである。



【分科会（ディスカッション）】

事例発表の3つのテーマでグループに分かれ、分科会を実施した。各分科会とも活発な意見や問題提起があり、コーディネーターの司会のもと、助言者が的確にアドバイスをし、有意義な会となった。途中、コーヒータイムがあり、談笑のなかで名刺交換が行われるなど、終始アットホームな進行であった。



【まとめ】

今回のクラブミーティングは、行政との協働とクラブの自立という一見相反するようなテーマであったが、クラブの自立というのは、組織の確立であって行政から離れることではない。このことが講演や事例発表、分科会を通じ参加者に理解されたことと思う。

（報告：中国ブロック地方企画班員 藤川佳久）